

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2013年4月1日

115号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



＜レダの川の玄関・第一船着場＞

レダの三月は、雨季も最後のコーナーを周り、日中の猛暑も次第に過ぎ去っていく残暑の時期で、四月になると寝苦しい夜は、いつの間にか消えて行きます。そんな季節のパラグアイ河は、徐々に水かさ上がり、ゆったりと流れて大地を潤し、人々にも命の水を与えていきます。レダの船着場の辺りには小菊のような黄色い花が美しく咲いて、空の青と白い雲が水に映り、何とも言えない広い心と安らぎを覚えます。この開拓当初からの第一船着場には、川の水が浅い時期（10月～2月頃）、一週間に一回来る定期船アキダバンや写真のような貨物船が荷物を運んで来る時に立ち寄ります。レダ自前のボートでインディヘナ村の急患をオリンポの病院に4時間かけて運んだり、ゲストを送り迎えしたりする時にも使われます。川の水位が高い時期（4月～8月頃）は、コンクリートのデッキがある海軍警備所近くの第二船着場に大きな船は出入りします。（飯野記）



【中田実所長報告】

二月二十七日、レダから一時帰国していた中田所長を迎えて、報告会を行いました。『中国では鄧小平の改革開放政策で、最も発展しやすい地の利を持つ深センや上海に経済特区をつくり、今日の世界第二の経済大国になる道を進めました。』

我々は、誰も顧みない見捨てられた地レダを定めて、「地獄に行つて地獄を開放せよ。」と開拓を始めました。前者は膨大な投資をなし、優秀な人材と技術を投入しました。我々は、限られた資金で、全く素人の者たちが今日まで開拓を進めてきました。ジャトロフアやモリンガに取り組んだり、何かをなしても成功しかけて失敗し、これもだめ！あれもだめ！と自然が全てを教えてくれました。

如何にして地獄を天国に変えるか、真剣に考え続けると、天から知恵が与えられます。今回のパクー孵化成功は、正に画期的なこと、新しい時代を迎えて勝利したいという執念で、天から導かれました。

人類の食料問題を考えるなら、魚の養殖は重要だと分かっていますが、今までは難しいという事で、避けて来しました。開拓十周年でレダに来られた神山先生が、「養殖ができる」といい。「と繰り返し返して行きました。何とかしたいと思っていた時に、滑走路の土盛り上げ作業が業者によって行われ、彼らは身近な所から土を得るために、滑走路の脇に大きな穴を開けて行きました。

これは養殖の池になると利用することになりました。しかし魚をどうするかと願っていると、支流の奥地に塞き止められた池が出来そこに10cm前後のパクーが沢山いることを発見、導かれて三千匹ほどを釣り上げて、用意した我々の池に放ちました。また二〇一一年

正月に、五千匹の稚魚をアスンシオン大学の教授の紹介で購入するとともに、養殖の指導に教授をレダに招きました。この時から本格的に養殖へのプロジェクトが勧められました。養殖プロジェクトの最大のポイントとは、如何に孵化を成功させて、自力で沢山の稚魚を得られるかにありました。

自然保護のために河に稚魚を放流するプランも、少なくとも数万匹単位で成せなければ、効果はありません。その為にも孵化の成功をしなければなりません。孵化を進める為の施設作りに二〇一一年は努力し、イタイプーダムの養殖場を初め、幾つもの大きな南米の養殖場を視察し、その良いところを取って、少ない投資で素人集団が孵化設備を準備したのです。そして数回にわたり教授が教えてくれた方法で、孵化を試みてみましたが、ことごとく失敗を繰り返しました。いよいよもう一度教授を招いて教えを請うことにしました。

来られた教授は、「いや、素晴らしい孵化設備だ。」とお褒めの言葉を下さいましたが、六回目の孵化のチャレンジも虚しく良い結果が得られませんでした。

教授曰く「メスの親魚が充分元氣な卵を持っていない。」ということでした。それぞれ池の魚の数も正確には分かっているが、餌の三分の一ぐらいしか上げていなかったのかもしれない。産卵前数ヶ月は、特別な栄養食をあげることも知りませんでした。その後も諦めずに親魚を調べ、二匹を水槽に確保していましたが、昨年十二月三十日、その一匹が七十%位産卵しているのを発見、慌てて母魚を取り上げ、残りの卵を産ませ、雄の精子をかけ、水が流れている孵化器に入れました。

、それが成功して、八度目のチャレンジでボウフラのようないく匹の稚魚を見ることができたのです。三日ほどは縦に上下に動きながら自分の胸にある袋の栄養で生き、その後は、こちらが与えた鶏卵を細かくして与えて育ちました。

実は孵ったばかりの稚魚の餌に何を与えたらいいのかわからないことは、充分理解していませんでしたので、水槽の中に茹でた卵を粉にしてどんどん入れたら、水槽が濁っただけでなく、水が腐って匂いを発するほどになり、ドタバタしながら対応して、何とか元気に育ってくれているようです。千匹近くいるのではないのでしょうか。そして更に孵化に取り組み、今年一月二十二日、遂に一匹の母魚から、百%孵化に成功しました。これは快挙です。このことを通してメス親の重要性を身にしみて感じました。女性時代が到来し、母が大切であることは、人間社会でも同じではないでしょうか。牛は一頭で年に一匹しか生みませんが、魚は一匹で十萬匹も生むのです。自然保護は勿論ですが、それだけでなく、これをしっかりと育てれば、人類の食糧問題解決に一石を投じれると確信します。稚魚を飼う池も、プラントンが沢山増えるよう準備して対応し、第一回目の稚魚は既に5cm前後に成長、第二回目の成功の稚魚たちは、一〜二cmに成長して専門の池で元気に育っています。益々希望を持って頑張っていきたいと思えます。(文責・飯野)



飯野副会長夫妻レダ訪問

南米はサッカー熱が凄い。パラグアイのインディヘナ達も老いも若きも熱狂的である。電気のない村では携帯ラジオでしか試合放送を聞けなかった若者が、この数年、テレビが見れるようになったレダで、ワールドカップのサッカーの試合に出会ってから、その熱は一気に膨れ上がりました。仕事以外の時間には、直ぐに何人かが集まり、ボールを蹴り始めます。今回、知り合いから、スペインのナショナルチームの「ユニフォーム上下」を格安で入手できたので、労働者たち用にお土産として持参しましたが、本当に男性たちも婦人たちもニコニコ顔で喜んでくれました。

写真 右 七百頭からの牛を飼っている奥地の牧童小屋を訪ねて、そこで働く牧童に贈呈

写真 中 食事や掃除をしてくれている婦人達もユニフォームの贈呈に大喜び。

写真左 豚舎を訪ねて、七百五十頭からの豚を世話するロメロさんにも贈呈。



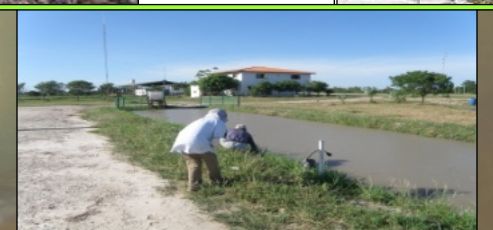
レダの近況

(伊達記)

今年一月の魚の孵化の成功で魚の養殖のめどがつき、中田所長はレダの気候、土壌に適した作物として里芋の栽培に力を注いでおります。里芋（さといも）の主成分はでんぷん質であるが、水分が多いので芋類の中では低カロリーである。里芋独特のぬめりは、水溶性食物繊維であるガラクタロンとムチンによるもので、炭水化物とたんぱく質の結合したものである。ガラクトンは、脳細胞を活性化させ痴呆やボケを予防する効果があり、免疫性も高め、がんの発生・進行を防ぎ、風邪の予防にも働く成分である。さらに消化を促進する作用もあり、整腸と便秘の解消に大変効果的だ。ムチンは、体内に入るとグルクロン酸に変わり、胃や腸壁の潰瘍を予防し肝臓を強化する働きがあり、たんぱく質の消化吸収を助ける作用や、滋養強壮作用もある。また里芋には、体内の余分なナトリウム（塩分）を排出し、高血圧やむくみを防ぐカリウム、糖質の分解を助けるビタミンB1、便通を促し、体内のコレステロールや毒素を排泄する食物繊維などが豊富に含まれています。



ドロ沼となった池の水抜きをして稚魚を入れる準備を一人でする青木指導員。三七度を超える中での作業は大変厳しい。



南北米福地開発協会会員募集を勧めてください!!

当協会は1999年9月に設立され、今日まで13年の間、世界最大の湿地帯パンタナールの生態系保全と南米パラグアイチャコ地方のインディヘナの村へ教育支援（学校建設、植樹による環境整備等）を中心に行い、地域の市、村ばかりでなく、国の大統領からも感謝されるようになっていきます。

インディヘナの村の生活環境は清潔な水も、電気もなく、一日に3度の食事も取ることができないのが現実です。解決の道は単に食料、物資の援助によってなされるのではなく、長い期間をかけ、子供たちの教育を進めることが重要であると教育改善に力を注いで来ました。

また、先進国である日本の青年たちに世界の現状を直接理解してもらうため、毎年、国際協力青年奉仕隊を組織し、今日まで12回、現地に派遣して来ました。

現地で活動した青年、学生たちは世界の現実に目覚め、社会貢献への道を歩み始めています。

南北米福地開発協会では発展途上国への支援は政府として努力することは勿論ですが民間団体として草の根の実践がより必要であり、多くの皆様が参加して下さい、世界の国々の平準化に寄与できればと念願しております。今後も、当協会は継続的に日本の青年を現地に送り、南米での支援活動を継続するとともに、パラグアイでの経験を下に、日本においても地球環境保全をテーマに教育啓蒙活動ならびに日本各地で植樹活動を行ってまいります。

是非、会員の皆様が会員募集をして下さり、当会が日本と世界により一層貢献できるように尽力下さるようよろしくお願いいたします。

南北米福地開発協会会員特典

毎月 パンタナール通信を送付 日本とパンタナールエコツアーの案内
年3-4回のピースライフセミナーへの案内
講演会へのご招待

会員申請用紙は事務局にありますのでご連絡ください。

南北米福地開発協会 事務局
〒221-3100
神奈川県川崎市高津区
溝口三十一番十五
岩崎ビル4F
電話 〇四四-八二九-二八二二
F a x 八二九-二八二〇
会費納入 郵便口座
一〇一八〇-七七六八〇四七一
メール office@asd-nsa.jp
ホームページ <http://www.asd-nsa.jp>

南北米福地開発協会
会員募集中
地球家族として
自然を守りましょう
南米、パラグアイ、パンタナール地域
へのエコツアーならびに植林活動
を通じて
生態系の維持と強化を促進し、その
地域をモデルとし、
世界に環境保護の大切さを
訴えています。
会費は月五〇〇円、
毎月、パンタナール通信を送ります。
また、
各種のセミナー、エコツアー等の
案内をいたします。